

## 平成 26 年度「三重県行財政改革取組」の進捗状況について

自立した地域経営を実現し、「みえ県民力ビジョン」の着実な推進につなげていくため、「三重県行財政改革取組」に掲げる 52 の具体的取組について、平成 24 年度から全庁を挙げて取り組んでいるところです。

本取組の進捗状況については半期ごとに取りまとめ、県議会に報告するとともに、ホームページなどを通じて県民の皆さんへ公表することとしており、今年度の具体的取組の年度実績を、昨年度までに達成済みの取組（40 取組）も含め、資料 1 別表のとおり取りまとめました。

なお、1 月末時点で取りまとめているため、2 月以降の実績は見込みとなっています。

### 1 本年度に達成する具体的取組の状況

#### ① 個人住民税の徴収対策の推進（別表 番号 13）

平成 26 年 5 月から、県内の全市町が法令に基づく特別徴収義務者の指定の徹底を開始しました。その結果、増収効果額は、個人住民税ベースで約 7 億円、個人県民税ベースで約 2.8 億円が見込まれます。

また、個人住民税の未済額を縮減するため、県の滞納整理ノウハウを市町と共有しながら、県と市町が連携をして県による直接徴収を進めました。

#### ② 市町と連携したより効果的な徴収方策や徴収体制の検討（別表 番号 14）

三重地方税管理回収機構の徴収体制の見直しにかかる諸活動に関し、情報共有と意見調整を重ねてきた結果、平成 27 年度から三重地方税管理回収機構において、10 市町の参加による新たな取組「滞納整理拡充事業」の実施が決定されました。

#### ③ 県民が納税しやすい環境の整備（別表 番号 15）

平成 26 年 5 月 1 日から 6 月 2 日の間、クレジットカード支払専用サイトによるクレジットカード納税を新たに導入しました。この間の利用実績は、7,375 件、297,717 千円でした。

自動車税を含む自動車保有関係手続のワンストップサービス（OSS）の導入については、各 OSS 関係会議、ワーキンググループ等により検討を実施し、導入する場合の条件について整理しました。

#### ④ 多様な財源確保策の導入（別表 番号 16）

鈴鹿スポーツガーデン及び総合競技場へのネーミングライツ導入に向けて、平成 26 年 5 月からネーミングライツ・パートナーの募集を開始し、7 月に開催した事前審査会及び選定委員会を経て、ネーミングライツ・パートナーを三重交通グループホールディングス株式会社、愛称を「三重交通 G スポーツの杜 鈴鹿」「三重交通 G スポーツの杜 伊勢」とすることに決定し、10 月から導入しました。

#### ⑤ 平成 26 年度末の県債残高を減少に転換（別表 番号 19）

平成 26 年度末の県債残高（臨時財政対策債等を除く）が平成 23 年度末よりも減少する目標達成に向け、可能な限り県債発行の抑制に配慮した予算編成に取り組んだ結果、現時点の平成 26 年度末の残高見込み（8,094 億円（平成 26 年 12 月補正後））が、目標の 8,185 億円を下回る見込みとなりました。

#### ⑥ 電子調達システムの機能改善・最適化（別表 番号 49）

平成 27 年 2 月に次期統合電子調達システムの物件部分の構築が完了し、公共事業部分を含めたシステムの全面的な稼働・運用を 3 月から開始し、利用者の利便性等の向上を図りました。

## 2 達成割合と今後の進行管理

「みえ県民力ビジョン・行動計画」における「行政運営の取組」の県民指標である「行財政改革取組の達成割合」について、今年度は 52 の具体的取組のうち、昨年度までに達成済みの 40 取組を含め 86%（今年度 5 取組）の達成割合を目標値としていましたが、それを上回る 88%（今年度 6 取組）の達成割合となる見込みです。

来年度は、取組期間の最終年度を迎えることから「ロードマップ」で示した工程に基づき、引き続き適切な進行管理を行い、全ての具体的取組における目標達成に向け着実に推進するとともに、これまでの取組の成果・課題を検証し、平成 28 年度以降の取組のあり方について検討します。